

第4学年 学級活動（2）学習指導案

1 単元（題材）名 水の事故を防ぐには「（2）日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

2 研究との関わり

(1) 身の回りの危険な場所の存在を確認させることで、日常生活と関連付けながら学習させる。

(2) いざという時の正しい対処法を体育科の学びと関連付けて指導する。

3 本時の学習指導

(1) 目標 水難事故の原因を知り、危険を予知することで事故を未然に防ぎ、安全な生活の仕方について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。 （思考・判断・表現）

(2) 展開

	学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ※評価 ☆教科横断 ★生活の場面
つかむ (5)	1 水難事故の実態を知り本時の課題を確認する。	○水の事故の実態	○水難事故の資料を掲示することで、事故の多さに気付かせる。
	課題 水の事故を防ぐには、どうしたらよいだろう。		
	2 過去の事故の記事から事故防止のために気を付けることを考える。 (1) 個人で考え、付箋にまとめる。 (2) グループで話し合い、ピラミッドチャートを使って整理する。	○記事の読み取り ○交流の仕方	○これまでの既習事項や生活経験を生かして、自分なりの考えを書かせる。 ○記事の読み取りができない児童には、どんな事故で起きたのかを考えさせる。 ○ピラミッドチャートの使い方を確認しておく。ホワイトボードに付箋を貼らせる。 ○付箋に書いた考えと他の友達の考えを比較しながら、発表させる。 ※水難事故を未然に防ぎ、安全な生活の仕方について話し合い、よりよい解決方法を考えている。【思考・判断・表現】（付箋）
	3 事故防止について、全体で確認する。	○事故防止のポイント きまりを守る 環境を整える	
	4 学区の危険マップを作る。	○身の回りの危険な場所の確認	★学区の危険な場所について知ることによって、日常生活と関連させる。
見つける (15)	学区にはどんな危険な場所があるのかな？		
	5 自分が実践することを決める。	万が一が起こった時は、どうする？	☆昨年体育科で学習した着衣泳を思い出させ、いざという時には、慌てず、浮いて待つを確認させる。
決める (10)	もうすぐ夏休みです。水の事故を起こさないためにどうしますか？		
	学びを夏休みの生活にどのように生かすか生活表に書かせる。		

4 板書計画

